
「学生とシニアの対話会」 事後アンケート結果
(2022年12月14日開催)

纏め：大野 崇

*参加者（アンケート回収数8）

(内訳) 原子カシステム安全工学を受講する8名 (B1名、M7名)

< 希望進路 >

進 学	1 名
就 職	7 名
未 定	0 名

➤ 講演、対話について

(1) 講演の内容は満足のものでしたか？その理由は？

【とても満足】 7名(87%)

【理由】

- ・本邦の原子力を取り巻く現状とともに、各企業の具体的な原子炉案が知れたのがよかった。
- ・原子力の現状がわかった。

【ある程度満足】 1名(13%)

【理由】

- ・原子力の過去や今後の展望をよく理解できた。

【やや不満】 0名(0%)

【大いに不満】 0名(0%)

(2) 対話の内容は満足のものでしたか？その理由は？

【とても満足】 7名(87%)

【理由】

- ・学生同士で原子力について話せたことがよかった。また、実際に設計を行った方の話を聞いたことが良かった。
- ・意見に対し様々なアドバイスをいただけた。
- ・具体的な問題や事例を知ることができた。

【ある程度満足】 1名(13%)

【理由】

- ・時代背景や実際に設計する際の考えなど、貴重な話を聞いた。

【やや不満】 0名(0%)

【大いに不満】 0名(0%)

(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

【十分聞くことができた】 4名(50%)

【理由】

- ・様々な意見を聞いた

【ある程度聞くことができた】 3名(38%)

【あまり聞けなかった】 0名(0%)

【全く聞けなかった】 0名(0%)

無回答 1名(12%)

(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？(複数回答も可)

【新しい知見が得られた】 8名(100%)

【マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった】 1名(12%)

【自分の将来の進路の参考になった】 2名(25%)

【教育指導の参考になった】 0名(0%)

【特に新しい知見は得られなかった】 0名(0%)

【その他】 0名(0%)

(5)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？

【非常にある】 5名(63%)

【ややある】 3名(37%)

【あまりない】 0名(0%)

【全くない】 0名(0%)

(6) 今後、機会があれば友人や後輩に対話会への参加を勧めたいと思いますか？

【勧めたいと思う】 7名(87%)

【理由】

・原子力への就職を考えている人には非常に役に立つと思います。

【勧めたいと思わない】 0名(0%)

【どちらとも言えない】 0名(0%)

【その他】 0名(0%)

➤ 放射線、放射能に対して伺います。(複数回答も可)

【放射線、放射能はやはり怖い】 1名(13%)

【一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた】 7名(87%)

【一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解できた】 0名(0%)

【放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた】 0名(0%)

➤ 原子力発電に対して伺います。

第6次エネルギー基本計画では、原子力については、安全性の確保を大前提に必要な規模を持続的に活用していくとしつつ、可能な限り原発依存度を低減するとしています。本日の対話も踏まえたあなたの認識は次のどれですか？その理由は？

【原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない】 4名(50%)

【理由】

- ・化石燃料の価格上昇、温暖化対策のため。
- ・CN達成のためにも必要であると感じます。

【原子力発電の必要性は分かっていたので、認識は変わらなかった】 4名(50%)

【原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ】 0名(0%)

【原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい】 0名(0%)

「どうすればよいのかよく分からない」 0名(0%)

➤ エネルギーについて伺います

我国は世界と歩調を合わせて2050年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルを政策の柱としています。一方、最近のウクライナ侵攻に対するロシアからの石炭、石油、天然ガス輸入停止制裁により価格が高騰し、エネルギー供給も懸念されます。とりわけ国土狭隘、資源小国の我が国においては再エネも限界があり電力の安定供給が懸念され、現在でも停電の危機が報じられています。このような状況を踏まえ、2050年カーボンニュートラル政策(脱炭素政策)と世界的エネルギー危機につ

いてお考えをお聞きします。

(1) 2050年カーボンニュートラル政策は必要と思いますか？

【必要であり、実現可能である】 0名(0%)

【必要であるが、実現するとは思えない】 8名(100%)

【理由】

- ・実現しなくてもCO2削減は必要である。
- ・再生可能エネルギーがそこまで大量に発電できるようになるとは思えないため。
- ・途上国において達成は難しく、協力していく必要がある。
- ・環境のために必要であり、推進すべきだと思いますが、原子力においても規制が多い中で実現するのは困難だと感じます。
- ・温室効果ガスはエネルギー分野のみで排出されるわけではないので難しいと思う。

【必要ない】 0名(0%)

【分からない】 0名(0%)

(2) 世界的なエネルギー危機についてどのように認識していますか？

【大変厳しい状況である】 3名(37%)

【理由】

- ・今後とも社会情勢に左右されるため。
- ・電気料金の上昇。
- ・ロシアはエネルギー供給の多くを占めているため、かなり厳しくなっていると感じます。

【厳しい状況にある】 5名(63%)

- ・人口増加によるエネルギー需要拡大。

【それほど厳しいとは思わない】 0名(0%)

「分からない」 0名(0%)

(3) わが国として2050年カーボンニュートラルの実現とエネルギー危機への対応はどうしたらよいとお考えですか？(複数回答可)

【再生可能エネルギーだけで可能と思う】 0名(0%)

【不安定な太陽光や風力には限界がある】 4名(50%)

【理由】

- ・原子力は必要になると思います。

【原子力を最大限利用すれば可能と思う】 6名(75%)

【理由】

- ・原子力も必要であるが、それ以外の分野についても進めていくべきである。
- ・原子力は必要になると思います。

【排出される二酸化炭素の分離、活用、隔離をすれば可能と思う】 3名(37%)

【水素燃料などへの燃料転換により可能と思う】 2名(25%)

【理由】

- ・原子力も必要であるが、それ以外の分野についても進めていくべきである

【ロシアからの燃料の代替供給元を探す必要がある】 0名(0%)

【ロシアからの燃料は再エネと原子力で代替できる】 1名(12%)

【理由】

- ・原子力も必要であるが、それ以外の分野についても進めていくべきである。

【その他】 1名(12%)

【理由】

- ・あらゆる発電方法をバランスよく活用すべき。

【分からない】 0名(0%)

➤ 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・議論を通して原子力に対する理解が深まった。今回行ったことを国民全員にやってほしい。
- ・貴重なお話をありがとうございました。
- ・企業や研究所でキャリアを積んだ皆さんと対話することができ貴重な機会となった。

以 上